

学位論文の内容の要旨

氏 名

氏 家 靖 浩

論文題目

Factors affecting the use of
complementary and alternative medicine
among Japanese university students

(論文要旨)

[研究背景]

現代社会において、治療が困難な疾患に苦しむ人々は勿論のこと、軽度だが不快な症状を持つ人々や、より一層の健康増進を望む人々が、現代医療のパラダイムの枠外にある、補完代替医療に接近するのは自然なことであると思われる。補完代替医療とは、大学の医学部で教育され通常実践されている現代西洋医学以外に包含される医療である。伝統医療や民間医療も下位分類に含まれ、これらは欧州では補完医療、米国では代替医療とも言われるが、ひとつにまとめて補完代替医療 (complementary and alternative medicine) と呼ばれており、つまり現代西洋医学領域において、科学的未検証および臨床未応用の医学・医療体系の総称と定義される。こうした補完代替医療を利用する可能性が特に高いと想定される社会集団である大学生を対象として、補完代替医療の利用可能性を把握することは意義があると考えた。

[研究目的]

大学生が補完代替医療ととらえているものは何か、そして、それらの利用に際して、どういった決定要因が寄与するのかについて、明らかにしたいと考えた。

[研究方法]

我が国の大学で、医師や看護師の養成課程ではない専攻に所属する日本人の大学生 1,096 名を対象とした。これらの学生に自己記入式で質問紙に回答してもらった。回答者数は 1,087 名であり、回答率は 99.2%であった。

[研究結果]

補完代替医療という用語を知っていた者は11%であった。補完代替医療のカテゴリーに入るものとして支持されたものは、多い方から「芸術療法」(353名)、「温泉療法」(349名)、「アロマテラピー」(345名)の順であった。これまでに体験のあるものは「ビタミン・微量元素等のサプリメント」(498名)、「栄養ドリンク」(483名)の順であった。今後体験してみたいものは「指圧・マッサージ」(373名)、「温泉療法」(303名)の順であった。今後、補完代替医療の利用を考える際、何を決定要因にするのかについて重回帰分析で解析すると、補完代替医療と自らが支持するものを優先して利用するという要因を根拠とする重決定係数が42%であり寄与が大きかった。

[考察]

補完代替医療という用語の認知度は必ずしも高くはない。しかし健康な大学生の場合でも、補完代替医療のカテゴリーにあるものについて、十分な知識もなく自らの判断のみで、健康増進や傷病の軽快を念頭において、必ずしも医学的な根拠がないものでも、安易に経口摂取やパフォーマンスを試みていることがうかがえた。これでは逆に健康を害する可能性もありうる。医療者が適切な情報提供をすべきであるし、医療者も補完代替医療について関心を持ち、患者という立場で診察室に現れる人々に対しては常に「補完代替医療を利用しているのではないか」ということを念頭に置くべきではないかと考えるに至った。

[結論]

大学生という将来的に補完代替医療を利用する可能性が高い人々は、補完代替医療と自らが支持するものを、自己の判断のみで利用を決定していた。診療において配慮が必要と考えられた。

掲載誌名	Journal of Complementary and Integrative Medicine ISSN (Online) 1553-3840, DOI: 10.1515/jcim-2014-0003 , October 21 2014		
掲載年月	平成26年10月	出版社(等)名	De Gruyter
Peer Review	④ 無		

(備考) 論文要旨は、日本語で1,500字以内にまとめてください。